



TITLE:

造園樹木としてのサクラ類の維持
管理技術に関する研究(Digest_要
約)

AUTHOR(S):

兼村, 星志

CITATION:

兼村, 星志. 造園樹木としてのサクラ類の維持管理技術に関する研究. 京都大学, 2020, 博士(農学)

ISSUE DATE:

2020-03-23

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k22498>

RIGHT:

学位規則第9条第2項により要約公開; 許諾条件により要約は2021-03-01に公開

学位論文要約

森林科学専攻

兼村 星志

論文題目 造園樹木としてのサクラ類の維持管理技術に関する研究

本研究では、造園樹木としてのサクラ類の維持管理技術のあり方を考察するため、知見の歴史的な蓄積及び変遷、現在の考え方、健全な育成に必要な植栽環境を調査研究した。

その結果、文献調査から知見の歴史的な蓄積は剪定、施肥、病虫害防除、補植及び保護に関して認められるが、その基本的な内容は大正期・昭和前期から現在にかけて変わっていないことが示された。また、アンケート調査から現在では病虫害防除、剪定、土壌改良、植替え及び施肥が重要な技術として考えられており、土壌改良と植替えは定期的に、剪定と施肥は適宜、実施すべきとの考えが主流であることが示された。なお、剪定、植替え及び施肥は回答者の職業等により考え方に違いがみられた。さらに、京都市内の鴨川公園におけるソメイヨシノの開花状況等の調査から観賞価値を高めるには、花冠面積、最大枝張、樹高及び植栽環境値が重要な視点であることが明らかになった。

以上から、サクラ類を健全に生育させるためには、病虫害防除、剪定、土壌改良、更新及び施肥を特に重点的に行うべきこと、観賞価値に重点を置いた維持管理を行うことが合理的であること、目標とする観賞価値を予め設定し、それに応じた植栽環境の確保が重要であることが示された。